友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10
電話 大塚(94)2801
編集兼発行人 稲尾守正
定価1部10円

入会申込は直接本部までハガキで一報下さい
東京都文京区音羽七ノ一〇
友愛青年同志会

団結の力を示そう

友愛社会建設にさあ！前進だ

第四回全国大会は三月四・五日の両日、東京・神田一ツ橋、如水会館において全国の支部・地区代表一五〇名が参集開催された。本大会は既報の通り九州・四国等の遠隔地の代表参加がめだち、全国組織完成への意欲は一段と盛り上がり、大会を通じて会員相互の団結は強まり、本年度が名実ともに"飛躍の年"であるという感がいやがうえにも深められた。なお本大会を契機として本会に副会長を設けることになり、川崎秀二氏（元厚生大臣）を新たに推戴、友愛山荘建設運動等の本格的事業遂行にあたり万全を期することになった。

第四回全国大会終る

大会は五月四日午前九時三十分よりおこなわれた開会式にはじまり各代表の熱烈な討論のうちに翌五日午後五時、昭和三十二年度運動方針及び事業計画以下提出十二議案を可決別掲の通りの大会宣言を発表その幕を閉じた。

第一日

大会第一日目はまず満場入口の代表者の受付から活気のあふれた空気につつまれたが、代表者が各議席に着くと、司会の鶴巻滑富部長より開会の辞が述べられ、第四回全国大会開会式は開催された。金員起立のうちに国歌「君が代」斉唱がおこなわれ、次いで鍵田修次君（山口支部）が会綱個を力強く朗読、参加代表の気分をひきしめ、大会気運を盛り上げていった。

引続き奥田大会準備委員長が立って、本大会の意義を強調した挨拶をおこない、会長挨拶に移った。

当日会長風気味のため会長に代り鳩山宗夫夫人が出席され「会長も本日を楽しみにしていたので非常に残念に思いますが皆さんも大いに頑張っていただきたい」との挨拶が述べられ副会長として推戴した川崎氏を紹介された。

川崎氏も出席中のところを急帰京していたっき特に挨拶をしていただいた。川崎氏からは本年度結成された各支部に対し支部旗贈与がなされた。来賓祝詞が終ると、ガルルギー伯より寄せられたメッセージをはじめ各団体、関係者よりの祝電披露をおこない、各地方ブロックより次の諸君がこもごも立って決意を披瀝した。

落田健一（関東）小川俊明（中部）丹生康成（近畿）土井昭道（中国）福本孝（四国）古館仁義（九州）一ノ瀬弘（学生部）北川登（本部）

最後に会員で「友愛の歌」を合唱

鳩山会長夫人

閉会式は終了した。

引続き議事に入り、まず仮議長に牧野鶴人対策部長を選出、落田健一資格審査委員長（日光支部）より代表者の資格審査結果が報告され、これを承認、ここに第四回全国大会は成立した。

高杉信美大会運営委員長（東京・新宿地区）からは、大会議事日程について運営委員会での審議結果の報告がありこれも全会一致で承認、議長団の選出に移った。議長団には議長丹生康成君（大阪・大阪地区）副議長大森茂夫君（岐阜・大垣地区）同熊谷典治君（長野・本牧支部）が選出され、丹生議長はたちまち大会書記長に福尾守正君（本部）書記に中島広君（学生部）、中宗紀正君（学生部）を任命議事日程としたがい一般会務報告を渡辺事務局長にもとめた。

渡辺事務局長は会務報告の中で本会のわが国青年運動における大きな役割を強調し本年度展開される友愛山荘建設運動等の本格的事業に対処するため全会員の決意をうながした。なお海野経理部長より会計報告がなされたが、会計政確立の上から一段と会費完納に努力するよう訴えた。

以上の報告に関し各代表よりそれぞれ質問が出たが、全会一致でこれらの報告を承認、本部提出九議案、地方提出二議案、学生部より追加提出された一議案を正式に採択、各分科委員会（審議経過二面、三面）を開き年後五時第一日目の議事を打ち切り、各代表は宿舎での夕食懇親会に参加した。

第二日

四日に引続き五日は午前九時三〇分より各分科委員会が再会され残金の議案について審議決定午前中に審議を終了した。

午後〇時三〇分から開かれた役員詮衡委員会は各地方ブロック、学生部及び本部より推薦されている役員候補者を審議、会長以下全役員の詮衡をすませ真武信幸委員長（福岡支部）より本会議に提案することにした。

なお昼食休憩中本部会議場のスターホールでは友愛合唱団による合唱がおこなわれ参加代表の担手をうばっていた。

午後一時三〇分本会議は再会され第一分科委員長土井昭道君（岡山広島支部）第二分科委員長（五十嵐省吾君（東京・墨東連合支部）第三分科委員会畑美雄君（近畿大）より分科委員会での審議詮衡及び結果が報告され、各提出議案について採決に入った。採決に入る前「原水爆実験反対要請決議」に関し三〇分質疑があり、第二分科委員会報告について再度討論をおこない採決をおこなった結果委員長報告通りの決議が可決された。また役員選出に関し東京・墨東連合支部及び学生部より緊急動議が出され、常任幹事二名増員が承認された。また役員選出に関し東京・墨東連合支部及び学生部選出常任幹事二名増員が承認された常任幹事十二名、幹事三十七名、会計の団結と全国組織の完成
二、原水爆実験絶対反対
三、福祉の増進で友愛社会の建設
四、友愛山荘をわれわれの手でつくろう
一、第四回全国大会宣言
我々はガルルギー伯の提唱する新しい人間関係、すなわち友愛を青年の間に打ち立て、社会に広めることによって友愛社会実現の理想に向って邁進するものである。
前途には幾多の困難が横たわろうとも全国の同志一同、一致団結して使命達成に進むことを誓うものである。
昭和三十二年五月五日
第四回友愛青年同志会全国大会

力伯より激励のメッセージ

友愛青年同志会全国大会代表者諸君！

原水爆戦争の渦巻に直面して、東と西、全世界の平和を愛する国民は、男子も女子も、人類の将来を救うために、共に立ちあがらなければなりません。

私は、原水爆の実験を阻止しようとしている日本国民の努力に対して、ふかうなる賛意と同情を寄せ、貴方がたのこの最終目的達成のために、あらゆる支持を惜しまないものであります。

日本の青年諸君よ

貴方がたの一生を、平和と自由のうちに、過ごすことをスイスチューリッヒにてリピアルト、クーデホフ、カルルギー

一九五七年四月二十四日

祝詞・祝電

第四回全国大会には各方面から祝詞、祝電が寄せられたが、大会に参加できなかった地方の会員からもそれぞれ激励と運動推進の誓いを寄せてきた。

× × ×

（敬称略）

●中小企業青年連盟、翌翔会、日本学生連盟、中央青少年問題協議会、日本ユースホステル協会々長田井照二、日本健青会、ベトナム協会、日本国際連合学生連盟、日本ユネスコ学生連盟委員長佐藤宗司、私学連

●中村梅吉、山本正一、金井忠雄、来栖中翁

●呉支部（広島）吉川昇一（北海道・余市地区）池田辰一（佐賀・佐賀地区）福林美南子（大阪・東区）

●間帳宗一（碧手・山形地区）星昭成（福島・検校岐阜地区）安留義徳（鹿児島・加世田地区）二瓶稔（宮城・秋保村連合青年会会長）

●渡辺昭次（ブラジル・サンパウロ市）

昭和32年度役員

会長 鳩山一郎
副会長 川崎秀二
常任幹事 稲尾守正 海野照雄 興田吉郎 川手正一郎 北川登 小島孝男 高杉信美 鶴巻克雄 深津栄一 牧野民子 柳沢定勝 渡辺昇
幹事 吉川昇一（北海道）青沼爽夏（北海道）市川秀明（青森）間帳宗一（碧手）落田健一（新潟）宮崎義重（埼玉）五十嵐省五（東京）藤田剛（東京）上井誠（長野）折戸博司（富山）小川俊明（岐阜）重野誠男（京都）宮川久米雄（兵庫）丹生康成（大阪）阿尾彰（大阪）土井昭道（岡山）小田嶺治（広島）安田勝（徳島）藤田貢（愛媛）上田正吉（福岡）古館仁義（長崎）以上地方選出
一ノ瀬弘（中大）松原朗男（日大）木村俊哉（早大）飯塚義和（法政大）他に日大・大阪学生部より各一名未定、以上学生部選出
大西敏治、佐々木茂郎、河村友夫、熊谷典治、大森茂夫、中川治男、塚腰雄、村口勝義、阪野真吾、早川忠光、以上本部選出
監査 土井昭道 五十嵐省五
統制委員 北川登、深津栄一、牧野民子、大西敏治、藤田剛、佐々木茂郎、鶴村延、鶴巻久子、宮本康一、一ノ瀬弘
事務長 渡辺昇
参与 柳沢優 福井正吉 来栖中翁 近藤春雄

原水爆実験の反対要請決議文

原子力の発見は、人類にとって極めて偉大目標かしたる発見であったそれは、この無限ともいうべきエネルギーを平和的に利用することによって、人類の経済的繁栄を充足し、世界の新たなる発展の源泉を生むべき性質のものであるからである。

しかしながら広島と長崎における原爆によって開始せられたこの殺人兵器の製造競争は、米、英、ソの相次ぐ実験の遂行によって恐るべき段階に突入するに至った。即ち原水爆によって投らされる放射能は、死の灰となって飛散し、光も、匂も、音もなく、われわれの頭上に降下し、大気と海水と地上のすべてのものを汚染しつつある実験が続けられる限り、それはこの恐怖と戦慄の放射能の絶えざる集積を意味するのである。

われわれは各国民の生命をおびやかす死の灰の製造、実験を座視するにしのびない。

われわれはわれわれの周囲に予定された放射能の集積と、将来の惨なる原水爆戦争の準備に対し、限りない、いきどおりをおさえることができない。

かつてわれわれは、本大会によせられたガルルギー伯のメッセージによって勇気づけられ、現在悪魔のささやきと共に続けられている原水爆実験の即時停止を、ここに人類の名において要求するものである。

右決議する。

昭和三十二年五月五日
第四回友愛青年同志会全国大会

会費完納促進決議

現在の会費納入状況の実情はまことに遺憾であって会運動の展開を阻害するものである。

会財政の確立に寄与し、もって会活動の具体的推進を可能ならしめることは同志会員の義務である。

ここに大会の名において会費完納の促進に努力することを決議する。

昭和三十二年五月五日
第四回友愛青年同志会全国大会

お願い

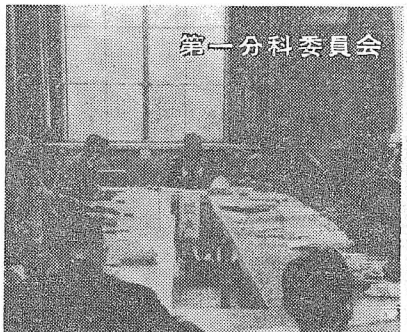
次号（五月一日号）を友愛山荘建設運動の状況号にいたしますので山荘建設に関する具体的意見や資料をどしどしお寄せください。

締切り六月五日

編集部

運動方針 事業計画 可決

第一分科委員会



会財政確立に熱意示す

第一分科委員会（委員長＝井昭道＝岡山・児島支部）は、同委員会に付託された「昭和三十二年度運動方針及び事業計画案」「昭和三十二年度予算案」「事業部設置に関する件」の三議案の審議することになり、本部側からは渡辺（事務局長）、深津（国際部）、澁野（経理）、北川（企画）の四常任幹事が出席、各議案の説明にあたった。

同委員会は五月四日午後二時三〇分開会されます、昭和三十二年度予算案から審議することになったが、プリントにあやまりがあったため訂正後に持越し、とりあえず第一号議案中の運動方針について審議することにした。

運動方針については深津常幹より、本部側からは渡辺（事務局長）、深津（国際部）、澁野（経理）、北川（企画）の四常任幹事が出席、各議案の説明にあたった。

同委員会は五月四日午後二時三〇分開会されます、昭和三十二年度予算案から審議することになったが、プリントにあやまりがあったため訂正後に持越し、とりあえず第一号議案中の運動方針について審議することにした。

運動方針については深津常幹より総括的な説明がおこなわれ、「三三の具体的問題について渡辺事務局長より補足説明をおこない審議に入った。

国際情勢及び国内情勢の分析について各代表より活発な意見が出されたが特に次の点が注目された。

篠田（東京）国際情勢について二大勢力の対立をふまえ「アジア・アフリカ諸国と協調を保ちつつ」の言葉を入れ、運出及び国内においても「大政党対立の言葉を入れた理由、友愛本来の姿は対立のない状態をさすと思うが、深津（本部）世界の勢力は現在三つに分かれているとみてよい。特にアジア・アフリカ諸国は第三勢力として世界の平和に重要な役割をはたしているとみるのが妥当でわかるうか、日本もアジアの一国であり、世界平和確立のためもこれらの諸国と一層協調を保ってゆくよう努力しなければならない。

渡辺（本部）世界の三つの勢力は現実に存在していると同時に国内においても「天政党は対立しない」の現実を無視は対立しないわれわれの運動方針を決定することはできない。現実の上に立って、友愛本来の姿に持ってゆくことが本会に課せられた使命である。

そのほか、政党との関係、綱領との関係等について質疑応答がなされ字句の一部修正をおこなったのみで運動方針の原案は可決された。

予算案の訂正が終ったので、事業計画は翌日に回すことにしたいとに予算案の審議に入った。海野経理部長は予算案全般について説明をおこなった中で本予算案の性格を説明各代表の了解を得た。

予算案審議にあたり、学生部を代表して一ノ瀬（中大）松原（日藝大）両君より予算案の中に学生生活費計上の提案がなされ、本部側の意向をたずねるとともに各代表の意見を求めたが、意見がまとまらず小委員会を設け具体的に審議することで第一日目は散会した。

五月五日は前九時三〇分より再会、前日に引続き予算案の審議を続けることになり、まず小委員会の結果を土井委員長より発表、学生対策費を計上することにして別稿の通りの予算案を可決した。

事業計画案は渡辺事務局長より総括的説明があり、審議に入ったが、農村青年交換について熊谷君（長野・本校）は昨年度の状況を説明、準備並びに方法について相当に充分考慮すべきであるとの意見が出され、時期方法についてはそのほか、安田君（徳島・小松島）蛭尾君（岡山・西大寺）等からも各地の実情にそくした方式をとるべきであるとの意見を充分とり入れ具体的要項を決めることで各代表も了承した。なお地方における事業について具体的な指示をおこなうべきであるとの意見も多く、事業計画案施に当たりこれらの点も考慮するよう本部に要請することで、事業計画を可決した。

次に事業設置について提案者の篠田君（東京・豊島）より提案理由の説明があり、各代表の意見が交換されたが、時期尚早の声が多いため、北川常幹より事業部設置の研究を本部において却下、午前十一時四〇分閉会した。

なお第一分科委員会では科委員会出席者一同の決議として別稿のような会費完納決議案を本会議に提出することにした。

論説

一人一人の力を結集しよう

第四回全国大会は、五月四、五日の両日の如水会館において全国代表百五十余名の参会を得て、催された。

今年の大会の特徴は、新しく参加した四国各県の代表を始めとして、遠隔の地からの参加者が多く、全国組織の達成が、着々進みつつあることが実証される。

更にカレルギー伯のメッセージの中にもとりあげられ、大会の最後まで論議がくりかえされた原水爆禁止の問題は、本会が如何に友愛を信条として世界の平和に進まんとしているかを示している。

また過去の成果を、かえりみて具体的な実践的な議題が多数提出され、中でも社会福祉運動、山荘建設運動を中心として活発な意見が交換された。地方代表からも農村の組織、あるいは中小企業者への対策をめぐって強い要請がなされ、学生部からは情熱あふれる充実・飽化の意見が開陳された。

今年の大会の特徴は、新しく参加した四国各県の代表を始めとして、遠隔の地からの参加者が多く、全国組織の達成が、着々進みつつあることが実証される。

更にカレルギー伯のメッセージの中にもとりあげられ、大会の最後まで論議がくりかえされた原水爆禁止の問題は、本会が如何に友愛を信条として世界の平和に進まんとしているかを示している。

また過去の成果を、かえりみて具体的な実践的な議題が多数提出され、中でも社会福祉運動、山荘建設運動を中心として活発な意見が交換された。地方代表からも農村の組織、あるいは中小企業者への対策をめぐって強い要請がなされ、学生部からは情熱あふれる

友愛山荘建設運動の盛況者が、多くの人々に認められ、直接の募金運動に入るべきである。

今年も華井沢友愛山荘の開設、土地の提供のあった妙義山頂での友愛キャンプ村の設置など、青少年の野外活動を助成する準備をすゝめている。

友愛運動の足がかりとして、会活動の力をためすためにも友愛山荘の建設をはたたろう。将来は全国各県に山荘を建てまで、この運動を続けてゆこうではないか。

友愛山荘建設の問題にふれると、土地の提供者も、既に数ヵ所あり呼びかけの段階から実践の段階に突入した。

本会の従来の運動は、幾多の効果を挙げたとは、それらは無形のものが多く、この友愛山荘建設運動において始めて、土地や建物など有形のものをつくり財産運動になる。即ち、貴重な財産を残すことになり、この財産が今後の友愛運動に絶限りのない役割を果すことになる。

従って、山荘建設もその内容をより具体化し、その運動もより実践的でなければならない。山荘建設の目的は趣意書や説明等でとりあげられた通りであるが、広く識者に訴え、多くの人々に説くと共に、聚地の開拓、直接の募金運動に入るべきである。

今年も華井沢友愛山荘の開設、土地の提供のあった妙義山頂での友愛キャンプ村の設置など、青少年の野外活動を助成する準備をすゝめている。

友愛運動の足がかりとして、会活動の力をためすためにも友愛山荘の建設をはたたろう。将来は全国各県に山荘を建てまで、この運動を続けてゆこうではないか。

友愛山荘建設の問題にふれると、土地の提供者も、既に数ヵ所あり呼びかけの段階から実践の段階に突入した。

本会の従来の運動は、幾多の効果を挙げたとは、それらは無形のものが多く、この友愛山荘建設運動において始めて、土地や建物など有形のものをつくり財産運動になる。即ち、貴重な財産を残すことになり、この財産が今後の友愛運動に絶限りのない役割を果すことになる。

従って、山荘建設もその内容をより具体化し、その運動もより実践的でなければならない。山荘建設の目的は趣意書や説明等でとりあげられた通りであるが、広く識者に訴え、多くの人々に説くと共に、聚地の開拓、直接の募金運動に入るべきである。

今年も華井沢友愛山荘の開設、土地の提供のあった妙義山頂での友愛キャンプ村の設置など、青少年の野外活動を助成する準備をすゝめている。

友愛運動の足がかりとして、会活動の力をためすためにも友愛山荘の建設をはたたろう。将来は全国各県に山荘を建てまで、この運動を続けてゆこうではないか。

第二分科委員会

第二分科委員会は、四日午後二時三〇分より如水会館中集会室で開催された。

本会議において、附託された議題は昭和三十二年度組織活動方針案、友愛山荘建設運動に関する件、原水爆禁止決議案、地方ブロック会議開催に関する件（尾道地区）学生部の充実強化に関する件（学生部）の五議題であった。

先ず議長には、五十嵐省君（東京・墨東）が選ばれ、書記に福尾守正君、本部側担当者として、興田（組織）川手（地対）深津（国際）の三常任幹事が議案の説明にあたることになった。

先ず議題の順序についての審議を行い、学生部一ノ瀬弘君（中大）より学生部の充実強化に関する件が先きに上程してほしいとの意見があり、最初に提案する旨決定、趣旨説明に入った。

今年度は学生部を充実し、支部組織の拡大、内外活動の推進、学習活動の強化、リクレーションサークルの強化をすゝめることによって発展をはかるとの説明があり、審議に入った。池内君（西大寺）より、甚だ結構な趣旨であるが、この趣旨に賛成せるという意味かそれともその具体的な事項について審議せよというのかとの発言をはじめとして活発な意見が展開された。趣旨には全員が賛同を示したが、その予算的裏付けや、ある いは活動の具体策については十分でないとの意見が強く、これに対し一ノ瀬・松原（日藝大）の両君より、学生部の発展のために是非実現したいと熱意あふれる解答があり、一時ほどの取扱いについて議事が困乱するようになったが、一応決定することになった。

全国組織の達成へ

組織活動方針を決める

昭和三十二年度組織活動方針について、興田組織部長より、本年度は組織五ヵ年計画の最後の年にあたるため、全力をあげて全国組織の確立に邁進したいと趣旨説明が行われ、従来の組織活動の反省に移った。

特に地方における実践活動が不活発であり、同時に本部からの活動の指針並びに具体的な活動内容の指示について、会費を完納しなければ会員としない点を厳度に守って欲しいとの反省が行はれた。

実践活動の促進については

①学習活動の強化
②活動内容の指示
③予算措置への配慮
④統一的活動
⑤地方独自の運動
⑥農村青年の交換と農場派遣
⑦事業研究発表会
⑧友好団体との提携

が場一致をもって可決された。

友愛山荘建設運動

建設後の管理を慎重に

第二分科委員会（委員長＝澁野・本校）は昨年度の状況を説明、時期方法についてはそのほか、安田君（徳島・小松島）蛭尾君（岡山・西大寺）等からも各地の実情にそくした方式をとるべきであるとの意見を充分とり入れ具体的要項を決めることで各代表も了承した。なお地方における事業について具体的な指示をおこなうべきであるとの意見も多く、事業計画案施に当たりこれらの点も考慮するよう本部に要請することで、事業計画を可決した。

次に事業設置について提案者の篠田君（東京・豊島）より提案理由の説明があり、各代表の意見が交換されたが、時期尚早の声が多いため、北川常幹より事業部設置の研究を本部において却下、午前十一時四〇分閉会した。

なお第一分科委員会では科委員会出席者一同の決議として別稿のような会費完納決議案を本会議に提出することにした。

（別稿）に入った。

翌五日、引き続き中集会室で会議を続行、地方ブロック会議開催に関する件について尾道地区の高橋誠宣君より趣旨説明があり、特に各支部、各地区における機関紙発行についての強い関心が示され、尾道友愛情報、児島友愛情報について高橋君、土井君（児島）よりそれぞれ報告があり、これに対し本多君（松山）から会紙「友愛」の一面をさいて、四国版・中国版をつくったらとうかとの意見が出され、本部側としては、まず地方支部のニュースをできる限り掲載することに重点をおき、つづいて地方版をつくることに努力をするとの解答がなされた。

友愛山荘建設運動に関する件については、山荘建設実行委員長福井正吉氏が主として説明にあたった。敷地提供の、飛騨川について後藤氏（金山）伊東・鶴浦について五十嵐君（墨東）より報告があり新しく山荘候補地に選ばれた。

山荘の管理について土井君（児島）より会で直接管理するようにすべきである、真武君（福岡）より既成山荘の活用を計れと、それぞれ意見が開陳され、福井氏から財団法人の設立をとり友愛の趣旨にのっとって運営するとの説明があり、会力をあげて山荘建設に邁進することを決定した。

原水爆禁止決議案は、万場一致賛成、字句の修成として核分裂をあらため原・水爆とした。他に一ノ瀬君（中大）より原水爆戦争の準備という表現を、原水爆による武力的均衡と改めるよう発言があり、かくして二日間にわたる第一分科会は各議案を原案通り可決、五十嵐委員長が本会議の報告にあたることになった。

結論として、学生部の情熱に拍手を送り、出来る限りその実現に対して協力支援することでこの案を可決した。

次に昭和三十二年度組織活動方針（別稿）を可決した。

32年度予算

友愛青年同志会

借方 摘要	金額
前年度繰越金	18,133.00
入会金	100,000.00
会費	1,000,000.00
賛助会費	200,000.00
賛助金	1,200,000.00
寄付金	2,400,000.00
事業収入	500,000.00
広告収入	100,000.00
雑収入	47,367.00
計	5,465,500.00

貸方 摘要	金額
事業費	637,500.00
○地方指導者講習会	187,500.00
○中央オルグ講習費	10,000.00
○友愛山荘開設費	60,000.00
○移動文化映画班	200,000.00
○地方青年交換費	10,000.00
○産業会研究発表会	70,000.00
○講演会費	50,000.00
○助成金	50,000.00
賛助会費	550,000.00
地方対策費	150,000.00
○支部地区助成費	400,000.00
○本部地方派遣費	200,000.00
学生対策費	200,000.00
○文化サークル費	150,000.00
○各種催物費	50,000.00
機関紙	576,000.00
○編集費	120,000.00
○印刷費	360,000.00
○発送費	96,000.00
会議費	1,062,000.00
○全国大会	877,000.00
○幹事会・常任幹事会・その他	50,000.00
○地方ブロック会議	135,000.00
調査研究費	140,000.00
○研究会	54,000.00
○資料出版費（友愛情報その他）	50,000.00
○調査員費	16,000.00
○特別会費	20,000.00
渉外・連絡費	240,000.00
○事務局連絡費	350,000.00
○事務信費	96,000.00
○事務用品費	60,000.00
○事務賃料費	44,000.00
○人件費	150,000.00
雑費	984,000.00
返済金	276,000.00
予備費	250,000.00
計	5,465,500.00

昭和31年度収支決算

昭和31年4月1日
昭和32年3月31日

友愛青年同志会

借方 摘要	金額
前年度繰越金	9,821.00
入会金	50,900.00
会費	209,000.00
賛助金	600,000.00
賛助会費	49,000.00
寄附金	966,000.00
事業収入	193,210.00
広告収入	2,000.00
雑収入	32,650.00
借入金	401,000.00
計	2,813,281.00

貸方 摘要	金額
事業費	576,380.00
友愛山荘開設費	191,436.00
移動文化映画班・他	384,944.00
文化活動費	67,840.00
地方対策費	144,730.00
機関紙	390,118.00
編集費	39,324.00
印刷費	290,850.00
発送費	59,944.00
会議費	45,901.00
渉外・連絡費	192,790.00
事務費	108,843.00
通信費	44,431.00
事務用品費	49,892.00
事務賃料費	14,520.00
人件費	450,000.00
雑費	9,896.00
返済金	352,000.00
昭和30年度借入金	200,000.00
本年度借入金一部	125,000.00
全国大会	483,650.00
残金	18,133.00
計	2,813,281.00

昭和32年5月3日監査

監査　土井昭道㊞
〃　青沼爽吉㊞

新陣容　本部の

川崎副会長

稲尾守正

渡辺昇

海野照雄

柳沢定勝

鳩山会長

牧野民子

奥田吉郎

川手正一郎

鶴巻克雄

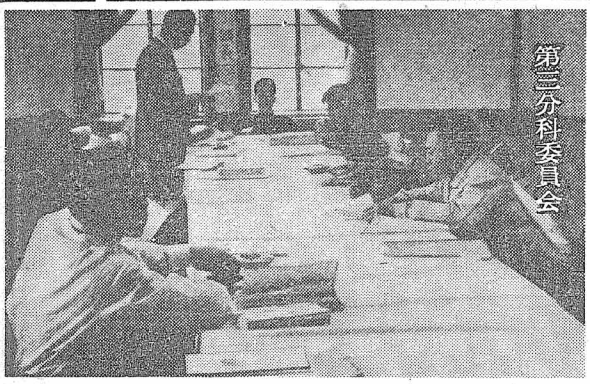
深津栄一

高杉信美

北川登

小島孝男

社会保障制度研究　特別委員会の設置


第三分科委員会

第三分科委員会（委員長畑雯雄＝近畿ブロック）に付託されて議案は、「会則一部改正に関する件」「社会福祉推進に関する件」「新役員選出に関する件」「大会宣言に関する件」の四議題であり、担当役員は北川（企画）鶴巻（情宣）牧野（婦対）海野（経理）の四幹事が説明にあたった。

第一日は四月十日午後二時三十分開会北川幹事より議案の審議順序について、事務手続の都合から役員選出基準を先議されたい旨の提案があり、第八、第四、第六、第九の順序に審議することを決定、直ちに第八号議案「新役員選出に関する件」の審議に入った。主な質疑及び問題点は次の如きものである。

服部（御代田）幹事を増員して幹事会の出席率を高める必要がある。

北川（本部）地区・支部の増加に伴う幹事の増員は必要であり可能である。

中川（船路）大会前にブロック会議を開催する旨の規定を設けてはどうか。

北川（本部）会の現状から左様な義務規定を設けることは問題である。なお各ブロックの幹事の定員についての本部案は、会員の分布情況および組織強化の拠点などを勘案して起案されたものであり、幹事会出席率を高める方法としては、一回の中一回を大阪で開くなどの方法を検討中である。

幹事と監査の関係について徳島代表の質問があった後、副会長の項を除く全役員の選出基準を採決本部原案通り可決。次いで役員選考委員会（御代田）大会前にブロック会議を開き、そこで役員選考委員を選出してはどうか。

北川（本部）技術的には問題もあるが、現状では参加代表中より各ブロックで選んだ者を大会で改めて選出するより他にない。

「会則一部改正に関する件」について、北川幹事より趣旨説明があり、別段の問題なく原案どおり可決、副会長の設置が決定し、同時に役員選出の中で留保されていた副会長選出基準が可決された。

ついで第六号議題「社会福祉推進に関する件」について鶴巻幹事より提案趣旨の説明があり、北川幹事が補足説明を加えた。

松浦（愛知）議案についての予算措置はどうなっているか。

鶴巻（本部）友愛旅行班の建設および巡回医療などは別途予算で計上される。各支部、地区においての具体的な運動、学習強化などについてはそれぞれ研究してやって貰いたい。社会保障立法、施設などの資料は本部で作成して送る。

次いで、柳沢幹事（宮城）より距離東北地方を巡回医療した経験談が発表され、山間僻地における貧農の衛生思想の低さ、或は社会保障への無関心について、それが常識をこえるものであるという実情が報告され多くの感銘を与えた。

「社会保障研究特別委員会」の委員構成について質問と意見が出たが、北川幹事より委員の構成並びに人員については事務局に一任されたい旨提案があり、これを了承の後第六号議案を一括採決の結果、満場一致本部原案が承認可決された。

ここで定刻になったので議長（細谷委員長）は閉会を宣言、五日午前十時再開する旨決定して午後五時散会した。

第二日は五日午前十時開会、第九号議案「大会宣言」について先ず海野幹事より文案の説明があり、これに対して丹生代表（大阪）より大会スローガンを挿入する提案があり、原水爆に関する岩手の文案修正が提案され、別項の如く決定、第三分科委員会附託の全議題についての審議採決を完了し、午前十一時三十分閉会した。

副会長に川崎秀二氏
―役員選衡委員会―

大会二日目の五日午後〇時三〇分よりおこなわれた後役員選衡委員会は各ブロックより次の代表が選出され真武真幸（福岡支部）委員長となり開催された。

蓬田健一（関東）五十嵐省五（東京）熊谷典治（中部）中川治男（企画）丹生康成（大阪）土井昭道（中国）福本孝（四国）真武真幸（九州）棚瀬勇（学生部）松原明男（学生部）鶴巻克雄（本部）他に婦団・北川正副委員長、及び渡辺事務局長。

なお同委員会では別稿の通りの各役員を選衡したが、本年度は特に副会長として川崎秀二氏を推戴することとした。

川崎秀二氏略歴

―明治四十四年三重県に生る。早稲田大学政経・学部卒、卒業後日本放送協会に入り、東州部副部長、企画部部長を歴任。戦後衆議院議員当選六回。その間逓歩党青年部長、改進党国会対策委員長、民主党副幹事長を経て、第一次鳩山内閣の厚生大臣となる。なお同氏は社会保障制度については関心深く、欧米各国、ニュージーランド等の社会保障制度を視察している。現在衆議院議員、自民党総務、陸運常任理事。尾崎記念財団理事長

渦まく爆笑
―疲れをわすれて―

会長招待パーテー

春雨煙る会長邸で

五月六日、会長招待のパーティは予定通り午前の会長邸で行われた折しも、春雨が細い白い糸を引いて緑の芝生を濡らしていたが、定刻十一時には、各代表を始め友愛合唱団、友好団体代表などが続々と参集、溢れるばかりの盛会であった。会場は座敷を開け放ち、ここは議事堂を通じて煙る鳩山邸の別宅を使用、鳩山会長代理の恵子夫人の歓迎挨拶で開会された。

例によって和服姿で襟飾りそのものの夫人も、今日ばかりは正立女子学園理事長の襟をぬいで、すっかりわれわれの仲間。「あの音物、ソ連へ着て行ったのと同じゃろか」……話しをきかないで音物に見惚れていた不遇の歌？のつぶやきである。次いで、恵子夫人が挨拶されている間、正座して〇貴余の目眼を両ひざに支えかねていた歌任はやはりの川崎秀二新副会長が、ひざをさすりながら起立、鳩山会長を扶けて、友愛旅行建設など福祉社会の実現に邁進しようと大演説をぶたれ、全員思わず大喝采。それ迄病臥中の会長に憂慮の思いを秘かに胸せて、しめり勝ちだった代表達も、ここらあたりでさわめき始めた。

夫人も名誉副会長

特別来賓の星島二郎代議士が、つづいて挨拶をされ、会場であるこの別邸が鳩山会長が病気で倒れられた部屋であり且つそこから起ち上られた由緒ある部屋であるという秘話を紹介、諸君の会の会長は鳩山一郎氏であるが、常に内助の功あつい恵夫人は、さしづめ副会長であろうと大いにわれわれ一同を喜ばせて下さる。又副会長の川崎代議士は大器であって、天下の浄財一千万や二千万は難なく持ってこられるだろうと、とに角無しい話ばかりで満場の拍手をあびせられた。

「一千万なんとお金をうして使うんだろう」

「馬鹿だなあ。山荘だけで二千万だぜ」

「へえー、友愛って大きいんだなあ」

東西交流・友愛方式

挨拶が終ると、急に空腹を自覚するのは人間の基本的な本能であるらしい。それに開け放された会場の庭に紅白の天幕を張って、開会前からねじり鉢巻の職人さんが懸命に江戸前の寿司を握っているのが見通しなのだからたまらない。腹の時計も八つ下り――ここで招宴の本番が始まるわけである。ところが、スシ屋合は一つ、空き腹は二〇〇余ではとうにも勘定が合わない。編み出したのが友愛方式関東、関西両代表のジャン拳で勝った方から食事、負けた方から演芸披露といういわば東西交流友愛版。この結果、関東代表（日光）が東照宮の加護を得て両？副会長来賓各位とと空腹充満の共同作業を行う光栄権を獲得することとなった。

二〇〇人以上を用意したお寿司には先輩を縁で本部に頼ってくる頃に、「気鋭のせいじやねえだろう」

「福島の食事が良かあなかったのんで、これもロハ（無料ということです）

「どこか大蔵鳩借りてやろうか」

「会財政に絶対寄与するぜ」

「出演料とられるじゃないかな」

かくて四時間、すっかり大会の疲れを笑い落した頃にはようやく雨も晴れてきた。芝生の庭に勢揃いした一同は「友愛の歌」を合唱、会長の病室に向って激励の万才を三唱し、互いに各地での活躍と来年の再会を誓い合って午後三時半散会したのであった。（北川）

【写真説明】右上・おすしをつまむ川崎副会長（左から三人目）左下・余興に阿波踊をおどる四国代表

雨晴れて

お腹に舌鼓工事ができると元気が出るというのも、人間の基本的な生活条件である。今年の演し物に珍妙奇妙が多く、しかも積極的且つ勇敢なさむらいの多かったのもひとつにはこのエネルギーの源泉のせいであったろう。四国代表の阿波踊り、九州代表の土人踊り、大阪、岡山代表のお国言葉万才、東京代表の手品、とにかく流中の一流、いずれ由緒ある流派の正統をついでいるんじゃないだろうかなどと思わせて満場は何度となく爆笑に渦まく有さま。お茶代りにどうだ、と東京墨東支部から寄贈されたサイダーをビール代りにのんで、「そうですかねえ――」

山友会

春のハイキング
―鋸山（千葉県）―

日時・五月二十六日（日）午前八時
集合場所・東京港竹芝桟橋
会費・四〇〇円

春山の会
―雲取山（一泊）―

日時・六月一日（土）午前七時半
集合場所・上野駅案内所前
会費・八〇〇円

相つく支部結成

川崎副会長より支部旗を受ける五十嵐支部長（墨東連合支部）

墨東連合支部（東京）

東京の墨田、江東、江戸川、葛飾、足立の各区を一丸とした墨東連合支部は結成され、第四回全国大会には東京で初の支部代表を参加させ、他区の支部結成気運を一層盛り上げさせている。

結成大会には本部より渡辺事務局長、興国組織部長、鐘尾学生対策部長、中村事務局員が出席、それぞれ激励するとともに、今後の運動をともに推進するよう要い合った。

同支部は一区連合支部として発足したが、各区の組織拡充ができ次第、各区ごとに支部結成をおこなうよう努力することになった。

墨東連合支部役員

支部長　五十嵐省五

支部常任幹事

組織部長　井上　正岡

事務部長　長谷　公治

婦人部長　後藤千代子

青年部長　清田　光範

相談役　加藤　榮保

〃　満生雄美子

〃　大西　厳治

〃　村方　勝

支部事務所

東京都墨田区江東橋三丁九　鈴木会館三階

神戸支部（兵庫）

立命館大学で活躍していた中川治男君は卒業後郷里の姫路市（兵庫県）に帰り同地の組織化につとめるかたわら神戸市にもおもむき、同志の結集をはかっていたが、昨年暮より神戸市兵庫区に住む大村晋一郎氏の賛同得て急速に神戸支部結成の準備が進んできた。

本年に入り、四月六日、十三日、二十日と準備委員会を開き、四月二十五日、支部結成大会を開催とし正式に神戸支部は発足した。

なお同支部ではとりあえず左記の支部長、相談役及び第四回全国大会代表者を決めその他の役員は全国大会後におこなうことにした。

× × ×

神戸支部役員

支部長　宮川久米雄

相談役　大村晋一郎

〃　竹岡　弥八

山口支部（山口）

山口市（山口）では先般来支部結成準備委員会を設け山口、大歳、篠生の三地区にわけ、同志結集につとめていたが、三十数名が会したので去る四月二十日支部結成大会をおこない、第四回全国大会参加態度等を協議、今後の活動を誓い合った。

なお同支部の役員は次の通りである。

山口支部役員

支部長　鎌田　修次

事務局長　国重　拓

会計　中野　健一

会計監査　黒川　清隆

支部委員

庶務部長　佐藤　正治

組織部長　德本　知二

文化部長　原田　成介

婦人対策部長　河祢　節子

支部事務所

山口県山口市大歳字下湯間　鎌田修次方

北海道冷害

救援運動を続ける

—岡山地区（岡山県）—

先に北海道冷害地に衣類等を送った岡山地区（岡山）では引続き救援運動を起こすことになり、来る五月二十五日岡山市において北海道救援募金パーティーを開催することになった。同パーティーは地元の山陽新聞社が後援し、収益を全額北海道冷害地に送金することになっている。なお同地区ではそのほかに第五北川丸遭難者に見舞金を送ることも考えている。

またこの催しを契機として岡山地区の支部結成を一層強力に進めることを期待している。

小松島支部（徳島）

支部事務所　神戸市兵庫区水木通一丁目　大村商店内

全国大会代表者　宮川久米雄、吉田廣眞、福島茂

先般の本部員による四国地方組織工作はいちじるしい成果をおさめているが、小松島市（徳島）では遅ればせながら支部結成をおこない、第四回全国大会には安田支部長をはじめ三名の代表が参加意気盛んなところを示した。

同支部の結成は同志二十二名によって四月十二日おこなわれその各役員を決め、全国大会後具体的活動に入ることになった。

小松島支部役員

支部長　安田　勝

事務局長　宮本　義雄

会計　平井　国吉

会計監査　西本　正己

総務部長　本田　稔

組織部長　山崎　健二

企画部長　福崎　廣広

文化部長　細田　舜治

情報宣伝部長　杉本　精吉

婦人対策部長　村瀬　義敬

支部委員　泰地　昌行

〃　村瀬　義敬

〃　村上　照是

〃　西本　正己

支部事務所

徳島県小松市坂野町字松ヨロ四五　安田勝方

山荘建設実行委員会

運動推進の中核体

友愛山荘建設運動は第四回全国大会を契機に、全力をあげて推進することになり、大会でも候補地を中心とした各地代表から具体的な問題について相当突込んだ意見が出され、ますます山荘建設意欲を盛り上げているが、これより先、四月一日三日友愛山荘建設実行委員会の第一回会合をおこない、建設計画を確認するとともに、次の各役員及び事務局を決め、運営体制を整えることになった。

＝友愛山荘建設実行委員会＝

福井委員長

委員長　福井　正吉

副委員長　深津　栄一

事務局長　渡辺　昇

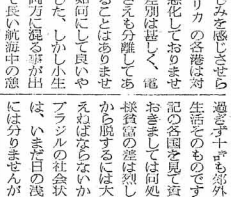
総務（責任者渡辺昇・次長柳沢定勝）

渉外（責任者奥田吉郎、次長高杉信美、五十嵐省五）

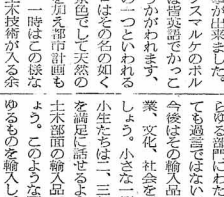
建設（責任者大西厳治、次長稲尾守正）

なお事務局は友愛青年同志会事務所内（文京区小石川町七の二〇）

ブラジル通信



サンパウロにて　渡辺昭次



写真は渡辺君（右）とブラジル青年

拝啓、

永らく御無沙汰致しました事誠に申し訳御座いません。

その後、友愛青年同志会を始皆様には如何お過しですが。

小生離国以来早八ヵ月余りになりますが極く元気でおります故他事ながら御安心下さい。

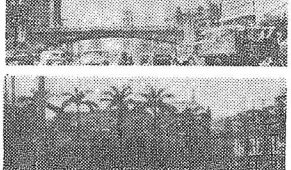
横浜港出航の際は御多忙中見送り下さいました事厚く感謝しております。あの印象は生涯決して忘れ得ないでしょう。

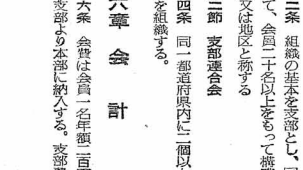
皆様に見送られ遥か故郷の山々を後にして二ヵ月後無事サントス港に上陸し十月十一日目的地サンパウロに着きました。

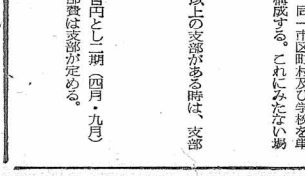
この間、香港、シンガポール、マレイ半島の一部ペナン、印度洋の真中位にある小島セリーシャス・南アフリカはポルトガル領のローレンス・マルケス、南アフリカ連邦のダーバン、ポートエリザベス、ケープタウン、次に大西洋を十日間で航海しリオデジャネイロ、次にサントス港と、六十日の航海の幕を閉じました。

日本は戦いに敗れ男等国、十二才の国民等かってわれていました。

香港は暗黒の港、シンガポールは長い間の英国の支配下にあった為か港は大きくあるが原住民の生活は奴隷そのものです、戦後十数年過ぎているのにもかかわらず日本語で話しかけて来る黒人さえありました。







同じ東洋人の親しみを感じさせられました。アフリカの各港は対日本人の関係は悪化しておりませんが、白黒人の感情は甚しく、電車、バス、バーさえも分離してあり、常に同席することはありません。黄色人種は如何にして良いやら分りませんでした、しかし小生達二、三の者は両方に混る事が出来ました、そして長い航海中の憂いの一時を過す事が出来ました。

又言語はローレンスマルケのポルトガル語を除ほぼ皆英語でかっこの英国の勢力がうかがわれます。

世界の三大美港の一つといわれるリオデジャネイロはその名の如く誠にすばらしい景色でして天然の美に超近代建築を加え都市計画も称えられており、一時はこの様な港はブラジルに我々土木技術が入る余地は無いのではないかとさえ感じましたが、それは大都市の一部に過ぎず十ぱも外に出たなら原始生活そのものです。又一般的に先記の各国を見た資本主義の社会におきましては何処の国にしても様貧富の差は激しく貧者はその境から脱するには大きな壁を乗りこえねばならないかと感じました。

ブラジルの社会状態につきましては、いまだ日の浅い小生には明確には分りませんが、農業を除きあらゆる部門にわたり輸入品といっても過言ではないでしょう。

今後はその輸入品の模倣により産業、文化、社会を形成して行くでしょう。小さな一例をあげるなら小生たちは二、三年後ブラジル語を満足に話せるようになったら土木部面の輸入品に過ぎないでしょう。このような国においてはあらゆるものを輸入してその経済を立てゆくのでありますから、輸出品である農産物の億大さが分ります。

さて、こゝサンパウロは産業の中心地といわれまして興地からのあらゆる産物が集り、または散って行きます。郊外には最近建てられた工場があり輸入経済から脱しようとして一きわ目立って進歩の途をたどっております。

日本のブラジル向けプラント輸出は各々の部分において有望でしょうが、ドイツあたりの戦後の進出によりその勢力があらゆる部門に食い込んでいるため、充分な研究の後でなければ失敗に終るでしょう。

次に一般的な問題はこの辺にしておきまして、下々の者について記します。（以下次号）

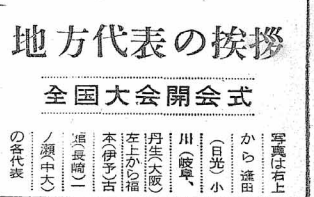
渡辺次君は本紙において先に報道した通り昨年八月横浜をたち十月十一日ブラジルのサンパウロ市役所で土木関係の仕事をしている。住所は左記のとおり。

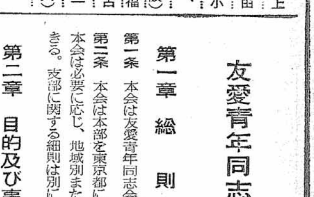
a/c Sr Fukuchi
c/ sostal 2176 Sao Paulo
BRASIL

〔写真はいずれもサンパウロ市街〕

地方代表の挨拶

全国大会開会式





写真は右上から　逢田（日光）、小川（岐阜）、丹羽（大阪）、左上から福本、伊予、吉川（長崎）、ノ瀬（中大）の各代表

友愛青年同志会会則（抄）

第一章　総　則

第一条　本会は友愛青年同志会と称する。

第二条　本会は本部を東京都に置く。

本会は必要に応じ、地域別または学校別に支部を設けることができる。支部に関する細則は別に定める。

第二章　目的及び事業

第三条　本会は友愛精神を基調として青年の団結を図り、政治・経済・社会および文化の全面に亘って公正なる識見を博めるとともに、青年の学識および社会活動を援護して共助共存の実を挙げ健全明朗なる民主社会の実現と自主独立の文化国家の建設に挺身することを目的とする。

第四条　本会は前条の目的達成のため左の事業を行う。

友愛精神および民主思想の啓培思想防衛と自衛体制並びに生産増および国土開発を目途とする奨励運動の推進。

社会福祉と厚生文化を基本とする新生活運動の展開

世論調査並びに青年運動に関する資料の調整

青年の学究および社会活動に対する援護協力

国際親善に資する青年運動、講演会、公聴会、討論会、座談会その他各種催物の開催

機関紙および各種刊行物の編集刊行その他本会の目的達成のために必要なる事業

第三章　会　員

第五条　本会の趣旨に賛同し会則を守る男女青年をもって会員とする。新しい入会者は定められた入会申込書に所定の事項を記入の上入会金及び会費をそえて居住地の支部に申込むものとする。

第四章　役員及び機関

第一節　役　員

第六条　本会の役員は、会長一名、常任幹事（会計一名を含む）及び幹事若干名、事務局長一名、監査二名、統制委員若干名とし大会において選出する。

第二節　機関及び機構

第七条　本会に大会、常任幹事会、幹事会を置く。

第五章　組　織

第一節　支　部

第十二条　組織の基本を支部とし、同一市区町村及び学校を単位として、会員二十名以上をもって構成する。これにみたない場合は班又は地区と称する。

第二節　支部連合会

第十二条　同一都道府県内に二個以上の支部がある時は、支部連合会を組織する。

第六章　会　計

第十六条　会は会員一名年額一百円とし一期（四月・九月）にわけ支部より本部に納入する。支部費は支部が定める。